

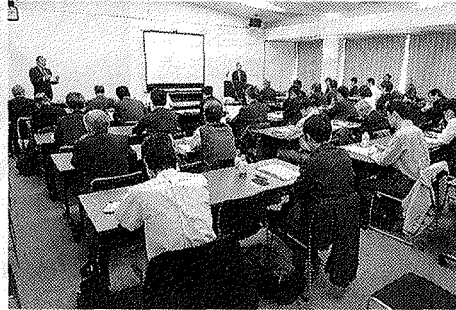


あいさつする睦好教授

埼玉県内の道路橋の維持管理にかかわる産学官で組織する「埼玉橋梁メンテナンス研究会」(代表理事睦好宏史埼玉大研究機構レジリエント社会研究センター長・教授)が、保全技術者の育成などに向けた活動を本格的に始めた。さいたま市内で29日に開いた第1回の技術研修会には、自治体や民間企業から約70人が参加した。県内橋梁の老朽化の状況やPC(プレストレスト・コンクリート)橋、鋼橋の維持保守方法などを学んだ。

産学官連携で技術者育成

埼玉橋梁メンテ研究会が始動



自治体や民間企業から約70人が参加

術研修協会(安田陽一会長)、関東地方整備局大宮国道事務所で構成する。点検、診断、補修・補強といった維持管理に関する意見を広く収集するとともに、保全施策や保全技術の検討・研究、県内橋梁技術者の育成などを通じて、橋梁保全の効率化に貢献していくことを目的としている。

研修会の開催に当たり睦好代表は、事後保全型から予防保全型への転換の必要性を強調した上で、「財源に余裕がなく、点検や維持補修まで予算が回らないこと、専門知識を備えた技術者が不在または不足していることが、自治体の大きな課題」と指摘。技術者育成などに向け、2018年度に産学官連携の研究会を立ち上げたことを紹介した。

初回の研修では、研究会構成メンバーの国、県、埼玉大のほか、プレストレスト・コンクリート建設業協会と日本橋梁建設協会からも講師を招き、最近の取り組み事例などを解説した。研修会は19年度にかけて全3回開く予定だ。

埼玉橋梁メンテナンス研究会は、県内すべての道路管理者が参加する埼玉県道路メンテナンス会議(事務局・関東整備局)の下に、自治体支援を目的に設置された「地域支援チーム」とも連携し、新技術の現場試行などにも取り組み始めている。